

夏の印教研集会を終えて

8月24日に、小学校は成田国際高校、中学校は成田小学校にて印旛地区教育研究集会が行われました。それぞれの部会が取り組んだ研究の成果を発表しました。小学校、中学校共に三部会が県教研へと進みました。



「印教研集会を終えての感想」

佐倉市立志津中学校 谷野 研

成田市立成田中学校 若狭 昌臣

教員になって5年目を迎えます。日々の授業、教材研究に悪戦苦闘する毎日です。授業のまとめの段階に入ると、「何をこの先生は言っているのだろう?」と言わんばかりの表情で、授業を受ける生徒が見受けられます。少しでも生徒が分かりやすい授業に改善するヒントを得たいという気持ちで、今回の印教研に参加しました。

1部会の「見える化」は、思考力を段階的に高めていく指導方法が参考になりました。自分の考えを明らかにする話し合い、文章にまとめる活動を充実させていきたいです。2部会のハンドブックは、今日の授業で指導が困難な部分の解決方法があり、授業に加えたいものを多く発見することができました。3部会の扱った題材は、3年間の学習の中で一番イメージしづらいと思われる「天体」でした。その単元全体について、生徒の既習事項から始まる学習の流れがすべて提示されており、自分の授業形態を変えていくヒントをもらいました。4部会では、発達段階による、育成したい力を意識した上で、エネルギー学習の方法について考えることができました。5部会の発表では、生徒のつまずきは「計算」にあるということを再認識することができました。計算が関連する題材の指導をよりきめ細かくやっていかななくてはならないと実感しました。

今回の印教研に参加して、2学期からの授業をさらに工夫していきたいと感じました。多くの生徒の理解が深まり、思考力が高まるように今後も授業改善を続けていきたいと思っています。

毎年、印教研には何か自分の授業に取り入れられるものはないか、また、授業の改善につながるものはないかということで参加させて頂いています。

1部会の「見える化」は授業の中での話し合い活動や発表の中でホワイトボードというツールの活用によって、生徒の表現力が大きく引き出されるということがわかりました。ぜひ、私も授業に取り入れていきたいと思えます。2部会の発表ではたくさんの理科指導のアイデアが2部会の先生方から出されており、今後の授業に是非活用していきたいと思えます。3部会の5つのユニットを組み入れた天体の学習プランは生徒が主体的に活動する場面を効果的に取り入れており、観察などが難しい天体の学習で是非参考にさせて頂きたいと思いました。4部会の発表ではまず小学生の電池の働きに対する表現力の高さに驚かされました。小中連携の取り組みを通して生徒の表現力が高まっていくことを感じさせる発表でした。5部会の発表は理科におけるつまずきの検証ということで非常に奥の深い内容であったと思えます。たくさんのつまずきの原因があげられており、授業をやるなかで生徒がなぜつまずくのかを考えながらやっていかなければならないと思わされました。

今回の印教研に参加して、生徒の理科への興味関心をどうやったらもたせられるのか。また、生徒の思考力、表現力をどうやってつけさせていくかをあらためて考えさせられました。私自身もさらなる努力を積み重ね、授業の改善をはかっていきたいと思えます。

理科の教員になってまだ日が浅く、教材探しや生徒に思考させる場面の設定について迷いながら授業を進めているのが現状です。今回の印教研集会では、自分自身の授業で実践できる内容はないかという視点で参加させていただきました。

1部会の提案は、実験の過程を虎の巻と題してマニュアル化させるとともに、自分の考えを“見える化”し生徒の思考を助ける内容でした。また、3部会の提案は、授業の中で実際に手にとって活動することが難しい天体の学習について、考える過程を大切にしたい授業展開を指導案や生徒のデータを提示した内容でした。これらの提案は、自分自身が授業の中でどのように生徒に思考させていきたいか悩んでいる部分を少し解決できそうだと感じました。今回は、多くの資料が提示されているので、資料を活用し、少しでも生徒のために役立てていきたいと思えます。

印教研集会を通して、今日まで、生徒の理解を助けるために授業を行うのではなく、授業数をこなすだけになってしまっていたこと、生徒が興味関心を持って授業に取り組むためには、自分自身に何ができるか考え行動することの大切さに気付かされました。自分自身の授業に対する考え方を改めるとともに、一人でも多くの生徒が「わかった！」と笑顔で喜ぶ姿を見られるようになるためにも、教材研究を進めていきたいと思えます。

今年度の印教研集会では、さまざまなことを勉強することができました。特に興味深かったのが、第2部会の提案された授業に役立つハンドブックづくりです。集められた情報を見ると、自分も理科の授業で困ったり悩んだりする部分が載せられていたり、よりよい授業の教材について載せられていたりして、すぐに役に立つようなものばかりでした。他の学年についても、一度目を通しておけば、事前に工夫して授業が行えると感じました。それぞれの学校や先生方が、情報を出し合えば、同じような失敗が何度も繰り返されることなく、よりよい理科の授業が増えていくと思えます。

また、第5部会の提案された「実生活との結びつきを意識した理科学習」では、同様のミニ扇風機をお借りして、自分の学級でも授業をしたので、興味深く発表を聞くことができました。実生活で使用しているものを実験に用いても、なかなか理科の学習が生活に活かされると感じさせることができず、学習と生活とを結びつけるのは難しいと感じましたが、子どもたちの様子を見ていて、こういう経験を増やしていけば、少しずつ意識も変わっていくのではないかなと思いました。今回提案されたことを自分なりに取り入れて、よりよい理科の授業ができればと思えます。



「講師の先生方からの全体指導」より

小学校講師 北総教育事務所主任指導主事 森 成雄 先生

来年度より新学習指導要領の完全実施ということで各部会ともその趣旨に基づいた提案であった。その内容の豊かさに感心させられるとともに、現代の理科の課題を多方面からとらえ、真摯に取り組む先生方の前向きな取組と努力はすばらしいと感じた。

どの部会も理論がわかりやすく筋道だった方向になった。大変よいことである。反面、それを検証する取組が弱い。もっと仮説に対する手だてはこうで、それはここに表れていて、それを行った結果児童がこう変わった、それはこのデータからわかる、という研究のポイントをしっかりと押さえて、追究して行ってほしい。

中学校講師 北総教育事務所指導主事 佐々木 猛 先生

新学習指導要領の移行期に入り、昔の内容に戻ったと思っている先生方も多いかと思う。しかしながら、これから教師になる人達が学んでいない部分でもあるので、先輩教師がいろいろな場面を通して教えていく必要がある。各研究部では、多くの新人たちを仲間に引き込み、研修の機会を持ったり、悩みに答えたりしていただきたい。平成24年度から中学校も新しい学習指導要領が完全実施されるわけで、大きな変革の時が来たのかもしれないが、いつの時代も変わらないことは、子どもたちにとってわかりやすい楽しい授業をやるのが大切である。そこには、きっと子どもたちの変わらない笑顔があることでしょう。